

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館

風 祭

作物を風害から守るために祈願す

る年中行事で、神主さんが御幣を切

り長い棒の先につけ祈願した後、風

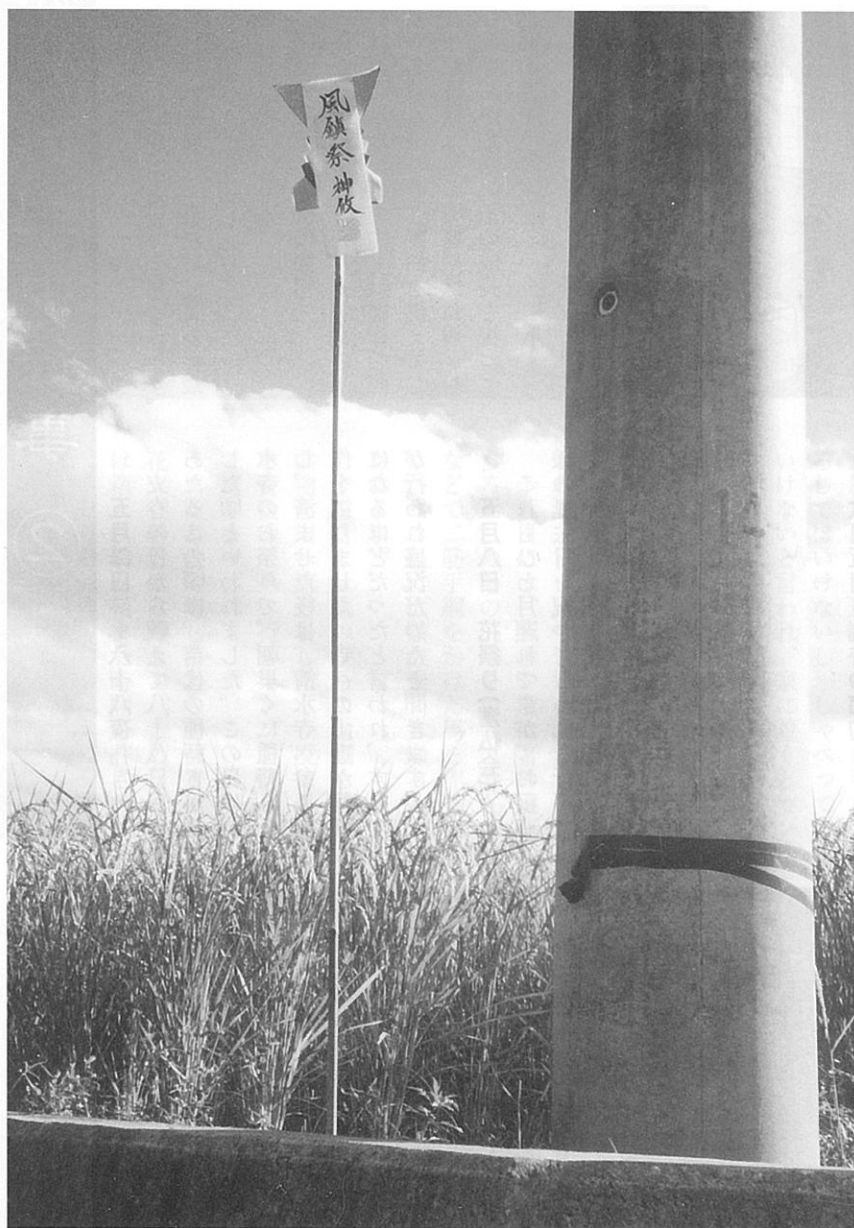
の通りやすい場所に立てておいた。昔はこの神社でも行ったが今では見る機会も少なくなった。

写真は九月に小坂中北沖で撮影し

た風祭の風景である。田んぼの畦が

コンクリートで固められ、電信柱が田端に立とうとも、作物を作る人間の自然への畏怖や敬意は、今も昔も

変わらないことを物語る一コマであ



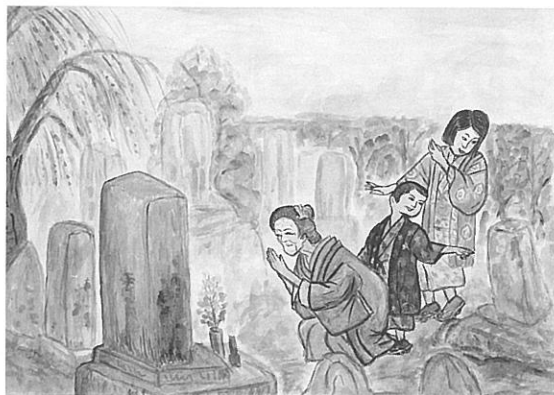
やまがたの年中行事 ②

ここに掲載の年中行事は、主として明治末から大正、昭和の中頃までを扱っています。前号に引き続き今回は後半を紹介します。掲載されている絵は、山形民話クラブが作成した紙芝居のもので、文章も参考にさせていただきました。感謝申し上げます。

三月 お彼岸

春分と秋分の日を中日として前後行われる仏教の行事で、多くはお中日に墓参りをします。おはぎや団子をつくって仏前に供え、花や線香、水を持ち、墓を参り先祖を敬います。

お彼岸



四月三日 桃の節句

ひと月遅れのひな祭りです。女の子には楽しい行事です。お雛様を飾り、あられや甘酒、菱餅を供えました。お雛様は母の実家やはね親、お仲人さんから女の子の成長を祝って送られたそうです。

桃の節句



五月二日 八十八夜

立春の日から数えて八十八日目にあたるこの頃は、苗代の種蒔きが適した頃といわれました。この日は清水寺のお祭りです。朝早くに種蒔きをし、済ませた後は、清水寺へ参り豊作を祈りました。寺への山道が行列になるほどだったと言われ、すもうが行われ盛況だったと聞きます。

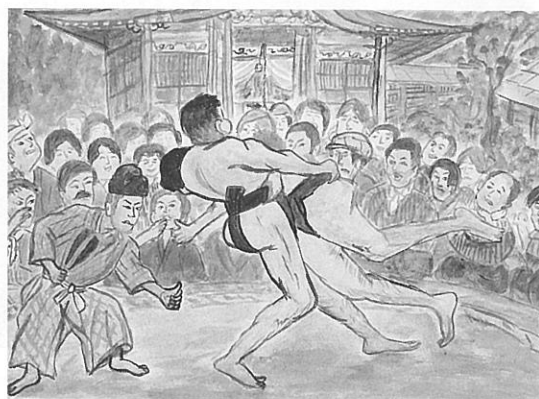
五月八日 花祭り(灌仏会)

これもひと月遅れですが、お釈迦様の誕生日を祝って行われる行事です。寺ではお釈迦様の像を祀り、参拝者はこれに甘茶をかけ手を合わせました。子供たちはこの甘茶をもらって帰るのが楽しみで、できるだけ大きな瓶を持っていったものです。

六月五日 端午の節句

男の子の節句で、鯉のぼりが空高く泳ぎ、のぼり旗が風にはためきました。屋根の軒先には鬼払いとして菖蒲とよもぎを挿し、風呂には菖蒲が入れました。また、夜寝るときに菖蒲で頭を縛って寝ると丈夫で長生きするともいわれました。

八十八夜 清水寺例祭





▶ 端午の節句

七月一日 農休み

昔の農作業はほぼ手作業で、毎日のように畑に出かけ本当に骨が折れました。それでもこの日は必ず休みとし、骨休めをしたものです。

この日にはススキの葉を何本か束ねてチマキを作り、これをみやげに嫁は実家へ帰りました。チマキを染めこんだ手拭いで代用することもあった様です。嫁の実家から帯やカタビラが贈られたり、手拭いの初おろしをするのもこの日でした。また田植え等の日雇い賃金の決済もこの日にしたようです。



◀ 七夕

八月七日 七夕

朝早く里芋の葉っぱに溜まった露をとってその水で墨をすり、五色の短冊に願い事を書いて竹の小枝につるし、庭先に飾りました。牽牛や織女の紙人形や、子供の着物などをつるした家もありました。そして縁側に机を出し、字が上手になる様にとすずり箱、またお針箱やそろばんも並べ、かぼちゃやとうもろこし等の野菜も一緒に供え、お星様に願いをかけたものでした。神秘的な星を眺めるこの行事は、夏の夕べの風情ある行事でした。

八月十三〜十六日 お盆

仏様を家に迎え、故人を偲び語ります。

十三日には盆棚をつくり棚には新しいゴザを敷き供物を並べます。花は桔梗、すすき、女郎花、オトコ花、萩などの盆花をとってききました。

夕方にはお墓へ行き、仏様を背負って帰ります。途中背へ回した手を下ろしてはいけないし、しゃべってもいけないと言われ、家に着くとカンパを燃やしてから中へ入り、後ろを向いて「ドッコイシヨ」と言って降ろしました。その晩は仏様共々御馳走で夕食になりますが、生臭い魚けのものを食べないと、仏様に口を吸われると言い必ず食べました。

十五日には、茄子や瓜に箸の足ともろこしの毛の尻尾をつけ、うどんなどで二筋手綱をかけた馬を作りしました。これに仏様が乗って帰ると言われます。

十六日には朝のうちに盆棚を壊し、供物を川へ流しました。今度は仏様を背負って墓へ行きカンパを燃やして送ります。

またお盆の楽しみとして、子供は花火、若者は盆踊りで、この日だけは箱入り娘も朝まで時間を許されたと聞きます。穴観音や御岳様の盆踊りは盛大だった様です。



▶ お盆
◀ お月見



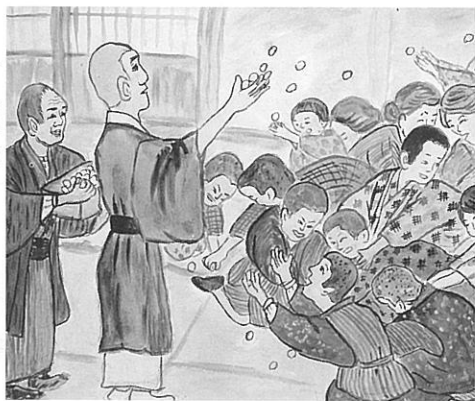
九月 お月見 中秋の名月

縁側のすずき越しに見る月は何ともいえない風情があつて秋の夜を過ごすにふさわしい行事でした。飾られた団子や枝豆も子供にとつてはたまらない御馳走でした。

またこの日だけは枝豆を盗んでも良いと、女はたすき、男は六尺すげ縄でまわけて盗んだと言います。

十一月 十日夜(お十夜)

トオカンヤには斗枰の真ん中に大きな餅をおき、まわりへ野菜をおいて、ひさしの上とか光の良くあたる所へあげて月に供えました。またお十夜といつて、寺では檀家から米を集めて団子をつくり、夜子供たちを集めて撒きました。



お十夜

年とり 餅つき



十二月 年とり

年の瀬になるとこの家からも餅をつく音が聞こえます。昔は米が少なく、ほとんどが粟を混ぜた粟餅でした。餅つきは二十八日か三十日に行われ、二十九日は苦餅といつて避けられました。正月飾りを神棚や床前に供え、松飾りとしめ縄が、すす払いされた玄関に飾られるといよいよ一年も終わりと実感します。年とりの夜には、ブリが出れば言う事ありませんでしたが、普通はいわしに大根、豆腐、煮物を食べたものです。この一年の無事をささやかに祝い、来る年への夢をふくらませるのは今も昔も変わらないところです。

三夜塚遺跡発掘調査速報

七月初めから九月中旬にかけて下竹田区三夜塚遺跡の発掘調査が行われました。三夜塚遺跡は松本平最大規模の縄文遺跡と昔から言われ、多くの土器や石器が出土していました。しかしその有名さから、しばしば盗掘にあつたという忌まわしい過去も持ち合わせています。

今回の調査は農道舗装工事に伴う緊急発掘調査で、八五〇㎡が調査されましたが、数百と言うおびただしい数の穴が確認され、コンテナ六〇箱余の土器・石器が出土しました。これらは、今から約四千五百年〜四千年前(縄文時代中期)のものと考えられ、永続的に人が暮らし、集落が存在していたことを物語ります。

出土した遺物には、県内で一〇数点しか発見例がない石槍や、滑石製のペンダント等があり注目されます。山形村のみならず、この地域の歴史を考える上で貴重な成果を得ることができたと思われます。

今後は土器洗浄や、割れた土器をくつつける接合作用、土器や石器の図面を作成する実測等の諸作業を経た後、報告書としてまとめられる予定です。出土した遺物は整理作業後、ふるさと伝承館で展示されます。



出土した土器
約四千年前の石組み炉

